

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第517号 平成30年9月・10月



平成30.31年度 西多摩医師会新執行部発足

目次

	頁		頁
1) 新役員の挨拶	広報部 … 2	11) 納涼の夕べ	佐藤正和 … 20
2) 学術講演会予定	学術部 … 7	12) 同好会短信	
3) 保健所だより	西多摩保健所 … 8	ゴルフ部だより	渡邊哲哉 … 21
4) 専門医に学ぶ	田尾 修 … 12	13) 広報だより	
5) 西多摩三師会 総会・講演会・意見交換会	玉木一弘 … 14	スキーだより'17-'18	古川朋靖 … 21
6) 糖尿病医療連携検討会からの 今月のメッセージ	野本正嗣 … 16	14) 連載企画	
7) 学術講演会抄録	学術部 … 17	サッカーW杯ロシア大会考	神尾重則 … 23
8) 学術講演会抄録(事前告知)	学術部 … 18	15) お詫びと訂正	広報部 … 25
9) 青梅市立総合病院地域医療 連携懇話会報告	澤崎恵子 … 19	16) お知らせ	事務局 … 25
10) 東京都医師会・西多摩医師会産業医研修会報告	宮城真理 … 19	17) 理事会報告	広報部 … 26
		18) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 31
		19) 表紙のことば	広報部 … 34
		20) あとがき	前田暢彦 … 34

平成 30 年度 新執行部の発足にあたって

街作りとしての地域包括ケアの構築 + 圏域と会員医業の将来像考察と再構築支援

山河迫る西多摩に災害時にも堅牢な、病床・施設・在宅療養機能連携による、循環型療養基盤の構築をめざします。



会長就任の挨拶



玉木 一弘

会員の皆様の、平素よりの地域医療と本会活動へのご協力に、心より感謝申し上げます。

この度は三期目の会長職をご承認頂き、誠にありがとうございます。以下、本欄にてご挨拶申し上げます各役員とともに、新たな執行部を組み上げ、西多摩医療圏の切迫する様々な課題に立ち向かいたく存じます。

この四年間の歩み、今後の本会活動の方向性につきましては、去る6月19日の平成30年度定時社員総会でもご報告し、本誌前号に掲載させて頂いたところです。

その概ねは、人口減・地域インフラ収縮・医療総需要の減少と高齢化を見据え、生活習慣病発症重症化予防・要介護予防・医療介護総合確保・健康寿命延伸等をキーポイントに、地域包括ケアの実現をアウトカムとして実施される、地域自治体主体の諸政策に同期し、西多摩二次保健医療圏と会員個々の医業の将来像を考察し再構築を支援することにあります。

また、それを支え得る健全な財務基盤に立ち公益目的事業に邁進する本会を、後輩会員に引き継ぐことにあると存じます。

三年度目に入った地域医療構想調整会議では、正にその地域の将来像が議論されています。

現在、在宅医療と病床機能連携の課題抽出、四公立病院の公的医療機関等2025プラン提示を終え、個々の医療機関の病床機能にも踏み込んだ議論が行われようとしています。

調整会議の目的の一つは、様々な事業状況にある個々の病院医療機関の、適正な将来像の選択支援にあります。それは、本構想の第一義である、急性期から在宅期、看取りに至る“医療・介護

総合提供の地域完結”、すなわち病状に応じて応急・状態像改善・リハビリ・レスパイト等に、各病床機能を繰り返し利用しつつ、多様なかかりつけ医機能により在宅療養を支え得る、“循環型療養基盤構築”を、戦略的役割分担・情報共有・連携の円滑化を足掛かりに、達成することを前提としています。

そのため、この四年間、本会ではその現場作りとして、国の五疾病五事業に加え、「五つのバリアフリー活動」を先駆けて行ってまいりました。これからも“街作りとしての地域包括ケア”を合言葉に、多様な機能の獲得と自己研鑽、人材育成のための研修、多職種間や電子カルテのICT連携、災害医療の確立を支えに、新執行部での活動強化を図りたいと存じます。

医師会会計は、100周年事業、新会館の減価償却開始などに伴うマイナス会計は脱しました。今後は、H24年に旧社団法人から一般社団法人への移行に際し策定された「公益目的支出計画」の履行を目指し、適正な公益目的事業を起案実施して行くことにも傾注したく存じます。

日本の縮図である西多摩で、公立・民間の境なく、西多摩の住民、医療・介護提供者の、だれも置き去りにしない将来像を描き、実現への道筋を歩めればと念願しております。

皆様のさらなるご指導ご鞭撻をお願いし、新期のご挨拶と致します。

西多摩医師会副会長に就任して



江本 浩

この度、3期目の副会長を務めさせて頂く事になりました江本でございます。これまで、玉木会長のもと、西多摩地域における災害医療対策、地域保健活動、学術活動、多職種連携による地域包括ケアなどに取り組んで参りました。特に災害医療についてですが、昨今は震災のみならず豪雨災害、大雪災害、猛暑など、これまでの想定を超えた災害医療対策が必要と思われますので、西多摩医師会全体で各市町村の担当部署、歯科医師会、薬剤師会等との連携を密にしてこの課題にスピード感をもって取り組んでいくことが重要と考えております。多くの会員の先生方のご指導とご協力を頂きますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

副会長・病院部特命担当就任の挨拶



石田 信彦

この度、副会長・病院部特命担当（地域医療構想、ICT）を拝命しました石田でございます。

この役をいただき3年目に入ったわけでありませんが、何とかこの2年間で導入が終わりスタートを切ることができました。医師会全体そして介護保険下のサービスと連携を図るには、まだまだ先の長い話となりますが、まずは病病連携は、その準備に入ることができました。2年間ICTで係わっていただいた先生方にはこの場をおかりしまして改めてお礼申し上げます。その病院部も一般病院の赤字経営の問題にまきこたえながら、今度は政府の働き方改革のため、さらに窮地に追い込まれそうであります。

この地域医療構想、ICT化が病院の構造改革・改善の一徐となることを願ひ、病診連携強化・地域包括ケアシステムを推進してまいりたいと思ひます。

どうぞご支援・ご協力のほどお願ひ申し上げます。

総務部担当就任の挨拶



土田 大介

昨期に続き総務を担当させて頂くことになりました土田です。昨期はその場の状況に対応するのが精一杯で総務部担当理事として至らぬ点があったかと思ひますが、今回は2期目となり慣れてきた分、医師会の将来を

(4)

見据えた活動にも関わりたい所存です。ご存知のように任期期間中には元号が改正される予定であり、消費税増税も見込まれています。新しい時代に向けて医師会がスムーズに対応出来るよう努めてまいります。

また、国は医療費削減のため病院から在宅への流れを推し進めており、医療・介護関係者による連携の強化が叫ばれています。「連携」の言葉は至るところで見受けられ、些か飽きてしまわれているかもしれませんが、医師会活動は理事会だけでなく、医師会員の方々のご協力無くしては成り立たないものでございます。今後も、引き続きご支援・ご協力して頂きますようお願い申し上げます。

経理部担当就任の挨拶



佐藤 正和

この度、前任奥村 徹先生の後を継ぎ、経理部担当理事になりましたあきる野市の佐藤正和でございます。

西多摩医師会の財務は会員の皆様の会費や入会金と行政からの受託事業、補助金等に大きく依存する構造となっています。より一層の財務の健全化を果たすためには、経費の削減に努めるとともに、玉木会長の指導のもと、他の理事の先生方と協働し、新たな収益事業の創出を模索することが必要かと考えております。

もう一つの懸案として、現在約1200万円の余剰がでている「公益目的財産額」をできる限り、当初の「公益目的支出計画」に近づける様、改めてその内容を検証し、適正な公益目的事業についても勉強させていただきたいと考えております。何卒宜しくお願い致します。

又、前期に担当させていただいた、納涼会、クリスマス忘年会、新年賀詞交歓会の司会も引き続き担当することになりました。数多くの会員の先生の出席をお待ちしております。併せて宜しくお願い申し上げます。

公衆衛生部担当就任の挨拶



田中 克幸

この度、西多摩医師会理事として公衆衛生部部長の職務を命じられました田中克幸と申します。

西多摩医師会には2004年5月より入会させて頂いております。

西多摩医師会支部のあきる野市医師会では8年間会計の職務を頂き、現在もあきる野市医師会副会長として職務を担当させて頂いております。

2004年5月からあきる野市野辺におきまして、さくらクリニックを開業させて頂きました。

専門は、消化器癌で、15年間埼玉医科大学第二外科に籍を置き、胃、大腸、肝胆膵や乳腺、甲状腺の検査、手術、並びに小児外科に携わって参りました。

大学病院時代は日々の予定手術を始め、救急、緊急手術に明け暮れる毎日を過ごして来ました。

当クリニックは、本来は籍のあった埼玉医科大学第二外科の先輩が開業された医院でしたが、病を患い医院での診療が困難となったため、教授の命を受け外向という形で先輩のクリニックを継承させて頂き、私が新しく開業させて頂くことになりました。

趣味はスポーツ全般。スキーやゴルフもそうですが今は週末のレーシングカートです。もてぎサーキットや榛名、御殿場、瑞浪、鈴鹿等のサーキットでシリーズ戦や全日本大会で成績を残しています。

それと食べ歩きやワイン、お酒も楽しみの一つで、毎日飲酒はしませんが、特にワインは研究対象の様に知識豊富です。

職務担当の命を受けた公衆衛生部は本来専門外ですが、皆様のご指導を受けながら頑張っていく所存です。

今後ご指導、ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

学校医部・総務部・公衆衛生部担当就任の挨拶



宮城 真理

学校医部、総務部の社会保険関係、公衆衛生部の産業医関係を担当させていただくことになりました宮城 真理です。昨期も学校医部及び総務部の社会保険関係をメインに携わり、公衆衛生部にも携わってきました。近年、学校医部では、小・中学校での定期健康診断の項目の変更があったり、また今年度からは生徒・児童に対してガン教育が新たに加わったりしています。義務教育における結核検診も数年前から方法がかなり変更されました。西多摩地域は、場所によっては結核蔓延国からの入国者が多数存在するので問診表も工夫が必要です。

そのために西多摩地区市町村結核対策委員会で誰でも使用できるものを作製するように現在検討しています。学校医が世の中の情勢の変化に遅れない様に皆様と共に進んでいきたいと考えています。総務部では昨期より整備会に参加しています。レセプトが電算化される以前は山積みのレセプトを各地区からの整備委員が確認していましたが、現在は私を含めて3名で確認作業を行なっています。整備会での確認書類は、まだ紙レセプトで提出される先生も居られる為、少なくなったとはいえ殆んどなくなったわけではありません。整備委員を引き受けていただいている先生方にはとても感謝しています。他の先生にも是非御協力をお願いしたいと思っています。また公衆衛生関係ではここ数年西多摩地区での予防接種事故が多発しています。保健所とも協力して事故件数を減らす様に研修会を開催したりして努力を続けていますのでよろしくお願い致します。

そして産業医も実際活動している先生方にはストレスチェック等も付加されて年々業務が大変になっています。変更点、新しく始まった項目等につきましてはすみやかに情報提供したいと考えております。

今後とも御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

広報部担当就任の挨拶



古川 朋靖

昨期に続きまして、広報部を担当することとなりました。羽村市で永仁醫院という耳鼻咽喉科を開院している古川朋靖と申します。会報の発行に関しましては、広報部員の先生方のご助力の元、頑張ってきました。これからも途切れないように頑張っていきたいと存じます。会員の皆様方にも原稿をお願いすることがあるかと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。さらに今期は、一般の方への医師会活動等広報にも力を入れていきたいと考えております。時代にあった広報活動が出来れば幸いと考えております。至らぬ点多々あるかと存じますが、何卒よろしく願いいたします。

地域包括ケア・地域医療構想担当 挨拶



大久野病院 進藤 晃

日の出町・馬場眞澄先生から引き継いで理事に就任いたしました、療養病床を運営している進藤晃です。青梅市進藤医院・進藤幸雄先生とは兄弟です。

この度、地域包括ケア・地域医療構想担当となりました。両制度はこれからの高齢社会で住み慣れた地域でできる限り長く住むことができるように考えられた制度で車の両輪の関係に有ります。在宅療養を送る方々のADLを維持するフレイル対策と在宅医療・介護を如何に提供すべきか、という地域包括ケアと、それを支える医療提供病床をどの様に確保すべきかを検討するのが地域医療構想です。

今後の西多摩における医療提供体制を担当するとは引き締まる思いですが、皆様からご支援頂ければありがたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域医療部担当就任の挨拶



進藤医院 進藤幸雄

前期に引き続き地域医療担当理事を仰せつかりました進藤医院の進藤幸雄です。地域医療は、疾病の予防や健康の維持、増進、治療後の在宅療養等、幅広く地域住民のQOL向上に深く関わるものであると理解しています。

厚労省は、超高齢化社会に向けて、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの充実を目指しています。高齢夫婦世帯や高齢独居世帯が増加した現在の家庭環境では、ほんの少しの健康問題が発生しただけで簡単に在宅生活が破綻します。高齢者の生活破綻の原因は医療の問題か、介護の問題か区別がつきにくく、医療と介護の問題を同時に抱えているのが高齢者の特徴といえます。

重度な要介護状態となっても、必要な医療は受けられなければなりませんし、暮らし慣れた生活に戻るには、介護、住まい、生活支援等、包括的なサポートを必要とします。医療のみでは解決できず、福祉のみでも解決できず、医療と福祉の更なる連携の強化や住民を含めた地域全体の理解が必要であり、地域包括ケア作りは街づくりと言えます。

充実した地域包括ケアシステム実現のために、地域医師会の果たす役割は大きいと考えます。地域医療充実のために微力ながら尽力していきたいと思っております。

学術部担当就任の挨拶



栗原教光

この度、昨期に引き続き学術部を担当させて頂く事になりました、栗原と申します。より質の高い学術講演会、市民健康講座、臨床報告会、パネルディスカッション等を心が

けて行きたいと思っております。会員の先生方は、日常診療で大変お忙しいとは思いますが機会がありましたら是非御出席のほど宜しくお願い申し上げます。

病院部担当就任の挨拶



榎田光夫

この度病院部理事として就任させて頂くこととなりました榎田です。公立阿伎留医療センターに就職して早くも8年が経過し、西多摩地区の先生方とも顔の見える医療ができるようになってきました。病院として、地域包括ケアシステムの構築、医療、福祉、介護など多職種にわたるネットワークの構築、災害医療、感染症パンデミック対策など、早急に取り組むべき課題は多数ありますが、西多摩地区の患者さんに少しでもお役に立てればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

監事就任の挨拶



横田卓史

3期目を迎えた、玉木会長の下で、又2年間監事を勤めさせて頂くことになりました。この4年間で執行部懸案の地域包括ケアシステムの構築や災害医療対策、IT連携など多少地区医師会の事情もありますが、体制は整いつつあり、完成に向けての2年間になろうと思っております。担当理事の健闘を祈ります。法人の経理上も大きな問題はないと思われれます。前期は医師会に多大な貢献をされた仲間である、小机先生や田坂先生を病で失うという大変悲しいこともございましたが、今後会員の先生方ともども体に気をつけながら勤めさせて頂きます。宜しく御願い致します。

監事就任の挨拶



中野和広

監事に再任されました。4期目となります。ちょっと長いなと感じているのですが、事前の後任について根回しをしなかった結果と、少々反省しています。西多摩医師会の監事選任には、理事とは違い、各地区の意向を反映する仕組みはありません。次期以降の監事の選び方を組織としてどうするのか、これからの2年間で少しは話題にできればと考えています。それはそれとして、これまでどおり、監事が目立たないで済む西多摩医師会であってほしいと願っています。

顧問就任の挨拶



真鍋 勉

3期目に入る玉木会長の下、再び顧問を仰せつかりました。

高齢化社会に超がつく2025年がさらに近づいている中、新生児にも850万円もの借金をさせている日本の財政状況で、医療、福祉はもとより社会保障制度全体が今後どのような展開を見るのか予測が付かない環境ですが、それでも我々には地域包括ケアのシステムづくりをさらに進めていかなければならない使命があります。

医師会活動に更なるご理解、ご協力をお願い致します。

◇学術講演会予定

30.8.22

開催日	開始～終了 時間 開催時間	会場	単位数	カリキュラム コード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
9.12 (水)	19:30 ～ 20:40	青梅市立 総合病院	1	15,73	学術講演会 【特別講演】 「減らすエビデンスの実践 －3剤併用は終わるのか?－」 【Q&Aセッション】 「抗凝固薬・抗血小板薬の使い方 －日常診療における疑問解決－」	北里大学医学部 循環器内科学 教授 阿古 潤哉 先生 司会 青梅市立総合病院 副院長 大友建一郎先生 コメンター 阿古 潤哉 先生
9.27 (木)	19:30 ～ 20:50	青梅市立 総合病院	1.5	72,4	学術講演会 「この症状見逃していませんか? ～西多摩ファブリー病セミナー～」 【一般講演】 「肥大型心筋症ヘテロ接合体ファブ リー病の当院での酵素補充療法の 効果・経過について」 【特別講演】 「日本人ファブリー病の心臓変と 長期酵素補充療法の効果」	(医社) 悠教会 波多野医院 副院長 波多野嗣久 先生 東京慈恵会医科大学 循環器内科 教授 本郷 賢一 先生
10.1 (月)	19:30 ～ 21:00	公立 福生病院	1.5	1,9	福生市医師会勉強会 「国際化と危機管理からみた 医療従事者の心構え」 －横田基地を擁する地域の 特殊性を踏まえて－	聖路加国際病院 副院長、救急センター長 石松 伸一 先生
10.10 (水)	19:30 ～ 21:00	青梅市立 総合病院	1	74	第16回西多摩高血圧カンファレンス 「高血圧の個別化医療」	国際医療福祉大学医学部 臨床検査医学 主任教授 下澤 達雄 先生
10.13 (土)	14:00 ～ 16:00	イオンホ ルの出 イオンホ	1	54	市民健康講座 【第1部】東京都対話促進事業 「緊急時の対応について」 【第2部】 「便の悩み解決法（便通異常）」	西多摩医師会会長 玉木一弘先生 公立阿伎留医療センター 企業長・院長 荒川 泰行 先生
10.24 (水)	19:30 ～ 21:10	公立 福生病院	1.5	19	学術講演会 こころのバリアフリー活動 「かかりつけ医」研修 【特別講演】 「高齢者医療における抑肝散と人参養 湯」～認知症とフレイルを見据えて～	けいめい記念病院脳神経外科 副院長 岡原 一徳 先生
10.27 (土)	14:00 ～ 17:00	パレステ ル立川			多摩医学会講演会 ・一般演題 ・特集演題 「健診について～各市医師会の取り組み」	
11.1 (木)	19:30 ～ 20:45	青梅市立 総合病院	1	63	学術講演会 「神経障害性疼痛における診断と痛み の治療」(仮)	東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部 麻酔科 痛みセンター長 住谷 昌彦 先生

保健所だより

1. 西多摩圏域感染症発生動向

2018年第23週～第31週(6/4-8/5)の間に診断された感染症について、青梅・福生・羽村・あきる野・瑞穂・日の出・檜原・奥多摩(以下「管内」)の医療機関より以下の報告がありました。

(1) 全数報告疾患 届出件数

〈二類感染症〉

- ・結核7件 肺結核1件、結核性胸膜炎2件、潜在性結核感染症4件。年齢は10歳未満、20代、60代、70代は各1件ずつ、80代3件。

〈三類感染症〉

- ・細菌性赤痢1件 患者1件、年齢は10歳未満、推定感染地はフィリピン。
- ・腸管出血性大腸菌感染症3件 患者2件、無症状病原体保有者1件。血性型・毒素型はO103VT1、O157VT1VT2、O91VT1。年齢は20代2件、50代1件。

〈四類感染症〉

- ・A型肝炎1件 患者1件、20代男性、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触。
- ・レジオネラ症1件 病型は肺炎型、60代男性、推定感染地は中国、推定感染経路は水系。

〈五類感染症〉

- ・後天性免疫不全症候群1件 AIDS 20代男性、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触。
- ・破傷風1件 臨床診断例、年齢は60代女性、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染。
- ・百日咳16件 年齢は10歳未満1件、10代6件、20代3件、30代3件、40代2件、60代1件。
百日咳含有ワクチン接種：4回接種済み5件(10代3件、20代1件、30代1件)
無し1件、不明10件

(2) 定点報告疾患 届出件数

定点種別	疾患名	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週
		6/4～	6/11～	6/18～	6/25～	7/2～	7/9～	7/16～	7/23～	7/30～
インフルエンザ	インフルエンザ(外来)	1	1							
小児科	RSウイルス感染症				1					
	咽頭結膜熱	9	8	6	7	7	4	1	3	2
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	20	12	23	29	16	10	7	21
	感染性胃腸炎	61	36	57	47	28	23	20	22	21
	水痘			1	2	1	3	2	1	1
	手足口病	3		1	4	5		2	7	1
	伝染性紅斑	2	2		2	4	3	3	5	6
	突発性発しん	2		5	3	7	2	2	3	2
	ヘルパンギーナ	4	4	1	1	7	8	6	23	4
	流行性耳下腺炎		2		1	2				1
	川崎病	1								
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎									
基幹病院	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎									
	クラミジア肺炎									
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)									
	インフルエンザ入院									
	合計	110	73	83	91	90	59	46	71	59

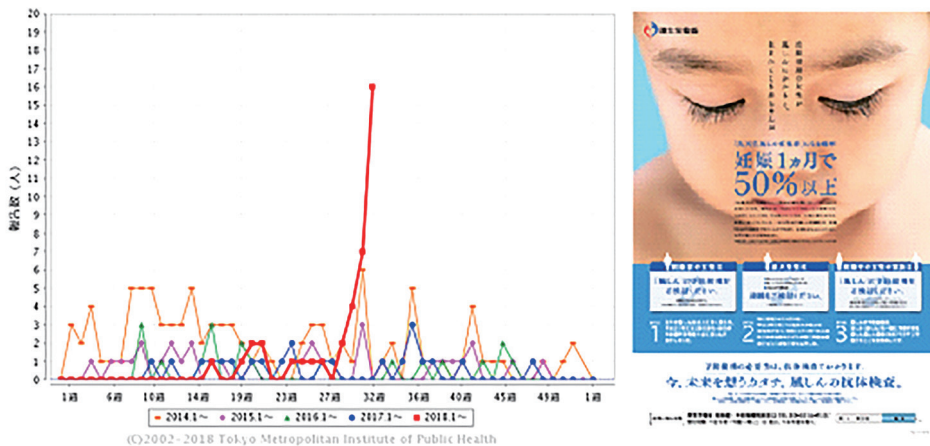
2. 都内で注目される疾患 31週(7/30～8/5)時点

- ・RSウイルス感染症は増加傾向にあり、今後の動向に注意が必要です。
- ・伝染性紅斑、ヘルパンギーナは比較的高いレベルが続いています。
- ・流行性角結膜炎は一部の地域で報告数が非常に高くなっています。
- ・手足口病は一部、定点報告数の高い地域が見られます。

3. 注目すべき感染症 風しん

都内では7月末より風しんの届出数が下図のとおり増加しています。医療機関におかれましては、下記の点に留意して、風しんの診断および発生届の提出等をお願いします。

〈過去5年間の都内発生届出数(2018年8月12日現在)〉 〈風しん予防接種啓発(厚生労働省)〉



記

- 2018年の都内の発生届出数は8月12日現在、39件で、20代から50代男性に多くみられています。西多摩保健所管内では発生届出はありません。
- 風しんの診断基準を満たす場合、直ちに保健所へ届け出てください。
 - 風しんの3徴候(発熱・全身性の皮疹・リンパ節腫脹)全てを呈する患者を診察された際は、保健所へご相談ください。
相談を受けて、保健所では遺伝子検査の実施を検討します。
 - ウイルス分離同定や抗体の検出(IgM抗体の検出、ペア血清での抗体陽転化等)で検査診断された場合にも、届け出てください。
- 疑い患者には海外渡航歴や国内旅行歴を確認するなど、風しんを意識した診療を行っていただくようお願いします。
- 発生届は休日夜間でも東京都保健医療情報センター(TEL:03-5272-0303)で受付しています。

感染症の発生予防および拡大防止に、引き続きご協力よろしくお願い致します。

【参考資料】

①風しんの流行状況東京都2018年 東京都感染症情報センター

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/rubella/rubella/>

②風しんの診断基準

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/assets/survey/kobetsu/k5-22N3.pdf#zoom=100?20180420>

③風しんの発生届

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/assets/survey/kobetsu/y5-22N3T.pdf#zoom=100?20180420>

④風しんの届出数の増加に伴う注意喚起について（協力依頼） 厚生労働省 平成30年8月14日付健康発 0814 第3号

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/dl/180814_1.pdf

西多摩保健所 保健対策課

災害時健康危機管理支援チーム DHEAT（ディーヒート）と 西多摩地域災害時保健医療活動

台風7号及び前線による平成30年7月豪雨では、7月6日から岡山県や広島県を始め1府10県で大
雨特別警報が発令され、河川の氾濫や土砂災害により多数の方が犠牲となりました。約1ヶ月を経た8
月14日現在、死者は221人で、今なお2700人以上が避難生活を続けています。^{1) 2)}

このような甚大な被害が生じた中で初めて被災地へ派遣されたDHEATと、災害に備えた西多摩地域で
の保健医療活動の取り組みについてご紹介します。

1. DMAT、DPAT及びDHEATの活動内容とチーム構成

平成7年の阪神淡路大震災では「防ぎ得る災害死」が大きな問題となりました。その教訓を生かして、
災害派遣医療チーム DMAT（ディーマット）が発足しました。また、広域災害救急医療情報システム
EMIS（イーミス）：Emergency Medical Information Systemが整備され、発災時に各自治体の避難所
情報や医療機関の被災および患者受入れ状況等を情報共有し合い、効果的な支援を行えるようになりま
した。その後、主に精神科医療保健活動を支援するDPAT（ディーパット）と、保健衛生活動を支援する
DHEAT（ディーヒート）が発足しました。そして、平成30年7月豪雨災害ではDMATやDPATに加え、
初めてDHEATが派遣されました。

1) 災害派遣医療チーム DMAT：Disaster Medical Assistance Team

災害の発生直後の急性期（概ね48時間以内）に活動が開始できる機動性を持った専門的な研修・訓練
を受けた医療チームです。その構成は医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名を基本とし、本部活動、
広域医療搬送、病院支援や情報収集等を行うロジスティクスも行います。1隊あたりの活動期間は移動時
間を除き、概ね48時間以内を基本としています。

2) 災害派遣精神医療チーム DPAT：Disaster Psychiatric Assistance Team

自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療および精神
保健活動の支援を行う専門的なチームです。その構成は精神科医師（先遣隊の場合は精神保健指定医）、
看護師、業務調整員ですが、ニーズに合わせて児童精神医、精神科医、薬剤師、保健師、精神保健福祉
士、臨床心理士等も含めて適宜構成されます。1隊あたりの活動期間は1週間（移動日2日・活動日5日）

を基本としています。

3) 災害時健康危機管理支援チーム DHEAT : Disaster Health Emergency Assistant Team

熊本地震の経験も踏まえ、平成 30 年に活動要領が定められました。被災地方公共団体が担う超急性期から慢性期までの医療対策、避難所における保健衛生対策と生活環境衛生対策に係る情報収集、分析評価、連絡調整等の指揮調整機能等が円滑に実施されるよう、保健医療調整本部及び保健所を応援する派遣チームです。主に保健所などの自治体職員によって構成され、その職種は公衆衛生医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、保健師、臨床検査技師、管理栄養士、精神保健福祉士、環境衛生監視員、食品衛生監視員、その他の専門職種及び業務調整員などです。現地のニーズに合わせて、1 隊当たり 5 名程度で構成され、活動期間は 1 週間以上を標準としています。

2. 東京都からの被災地派遣

東京都では広島県からの要請に基づき、7 月 17 日から 8 月 1 日まで公衆衛生医師、保健師、管理栄養士、衛生監視員、事務調整員の 5 名からなる DHEAT を計 3 班派遣し、さらに 7 月 12 日から 8 月 11 日まで保健師 3 名、事務調整 1 名からなる保健師チームを計 6 班、派遣しました。

それ以外にも岡山県には事務職員が 7 月 10 日より、被災地での避難所運営、体育館等での物資仕分け、災害対策本部運営補助、罹災証明発行などの業務を支援するため派遣されています。

3. 西多摩圏域での市町村災害時保健医療活動への取組

保健所では、市町村の災害時保健活動マニュアル作成を支援するため、平成 28 年度に「西多摩圏域市町村災害時保健活動ガイドライン」³⁾を作成しました。そして、このガイドラインをもとに、平成 29 年 3 月に青梅市が、平成 30 年 3 月に日の出町が災害時保健活動マニュアルを策定しました。さらに平成 30 年度は日の出町のマニュアルの実効性を検証するため、訓練や研修会を実施することになりました。

7 月 31 日には「立川断層による地震発生から 72 時間までの保健活動に関する各班の動きや連携方法」をテーマに、日の出町保健センターで図上訓練を実施しました。例えば、「避難所である小学校に 92 歳・男性／要介護 5 の高齢者がいる。介護者の妻も 88 歳と高齢で、他に身内はいない。早急に対応してほしい。」というお題に、参加者一同、知恵を絞って取り組みました。今後、日の出町総合防災訓練において避難所における保健活動訓練も実施する予定です。また、日の出町との取組の成果を市町村職員向け研修会「災害時の避難者支援と受援のあり方」や各種会議等を活用し、圏域他市町村にも普及していく予定です。

自然豊かなこの地域では常に自然災害と隣り合わせです。7 月 28 日には台風 12 号の接近に伴い、あきる野市、奥多摩町、日の出町では避難準備情報を出して避難所が開設されたり、青梅市の今井地区では自家用車の緊急避難先として市有地や公園が開放されたりしました。今後も、災害時医療救護活動ガイドライン⁴⁾などを参考に、引き続き災害対策の充実を図っていく必要があります。

【参考資料】

1) 【概要】平成 30 年 7 月豪雨による被害状況等について 平成 30 年 8 月 15 日 内閣府

http://www.bousai.go.jp/updates/h30typhoon7/pdf/300815_h30typhoon7_01.pdf

2) 平成 30 年 7 月豪雨による被害状況等について (第 47 報) 平成 30 年 8 月 15 日
厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/content/10600000/000343486.pdf>

3) 西多摩圏域市町村災害時保健活動ガイドライン

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/nisitama/tiiki/kadaibetu_plan/saigaideline_phn.html

4) 災害時医療救護活動ガイドライン (第 2 版) 平成 30 年 3 月 東京都

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kyuukyuu/saigai/guideline.html>

専門医に学ぶ 第132回

青梅市立総合病院 神経内科 田尾 修

【症例】 68歳男性

【現病歴】 当科外来受診の2ヶ月前より左手の痺れ、左手で手にした物を取り落としやすいことを自覚した。1ヶ月前には左手の脱力に伴って呂律が回りにくくなる10～20分程度の発作を繰り返すようになった。外来受診し一過性脳虚血発作が疑われて抗血小板薬を開始したが、症状は改善しなかった。脳造影MRIにて右大脳病変が疑われ、入院精査を行った。

【既往歴】 1年前に下壁梗塞に対して経皮的冠動脈形成術（当院循環器内科）、高血圧

【来院時現症】 意識清明、見当識良好。発作間欠期には神経学的に異常はない。明確な高次機能障害もなし。発作時にはややボンヤリするが会話による意思疎通は可能。粗大な痙攣はないが、左手がぎこちなく動かしづらくなる。

【検査所見】 血液検査（自己抗体、腫瘍マーカーを含む）・脳脊髄液所見に異常なし。脳造影MRI：右側頭頭頂葉皮質に髄膜のガドリニウム増強効果を伴うT2/FLAIR高信号病変がある。両側側脳室は開大している。拡散強調画像には異常なし（図1）。全身造影CT：異常なし。脳波（非発作時）：右側優位に2～4Hz程度の高振幅徐波または棘波が散発的に混じる（図3）。

【鑑別疾患】 髄膜炎（感染性、慢性関節リウマチなど膠原病に起因するもの、悪性リンパ腫、髄膜癌腫症）、脳血管炎、肥厚性硬膜炎（感染性、特発性）

【脳生検所見】 右側頭部開頭脳生検を行い、組織学的に脳表及び脳実質内の血管周囲に小型リンパ球浸潤を認めた。異型細胞・類上皮細胞肉芽腫・脳実質壊死などは認めなかった。

【臨床経過】 臨床経過と脳波所見から右大脳病変による症候性てんかん（部分発作）が疑われた。イーケプラ1000mg内服を開始したところ発作はコントロールされた。組織学的に特発性肥厚性硬膜炎と診断し、ステロイドパルス療法（メチルプレドニゾロン1000mg、3日間）とプレドニゾロン60mg内服療法を開始し漸減した。治療開始1ヶ月後の脳MRIにて右大脳表面のガドリニウム増強効果は消退し、同部位の脳腫脹も軽減した（図2）。経過中開脚位・体幹の動揺を伴う失調性の小刻み歩行が出現し、タップテスト陽性もあり肥厚性硬膜炎に伴う水頭症が疑われた。今後脳室腹腔シャントを行う可能性も考慮して経過観察中である。

【考察】 本症例は脳軟膜の炎症と考えられ、明らかな基礎疾患は認めないことから特発性肥厚性硬膜炎の範疇に含まれる。肥厚性硬膜炎は一般的に頭痛を自覚することが多く、痙攣を合併することは10%未満とされている。また軟膜炎に伴う髄液吸収障害が原因と考えられる水頭症の合併例も報告されているが比較的稀であり、本症例は希少な一例と考える。臨床的に一過性脳虚血発作が疑われるが抗血小板療法への反応が不良の場合、症候性てんかんと基礎疾患として肥厚性硬膜炎も考慮することが重要と考えられた。

脳MRI

図1
治療開始前

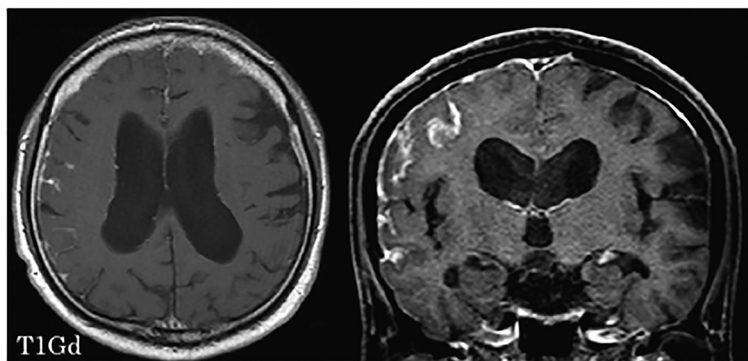


図3
治療開始後

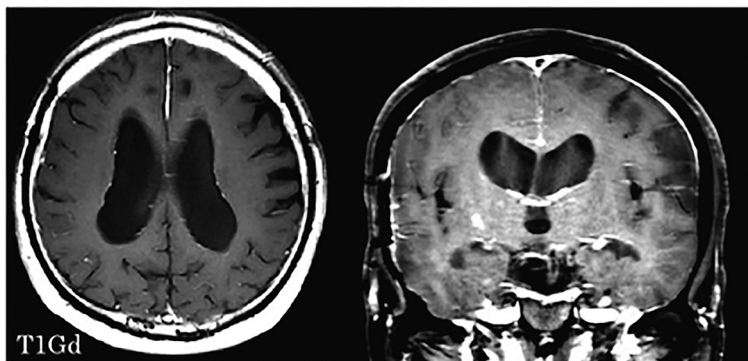
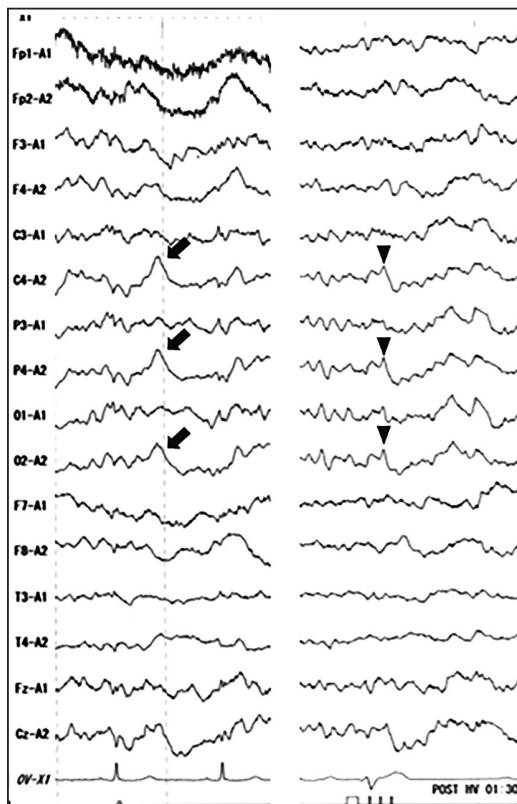


図2 脳波
右優位の
徐波 (矢印)
棘波 (矢頭)
の出現



平成 30 年度西多摩三師会総会開催される

西多摩三師会平成 30 年度総会・講演会・意見交換会が、平成 30 年 7 月 14 日 フォレストイン『昭和館』で開催された。内容は以下の通り。

【平成 30 年度総会】

<会長挨拶要旨> 本会設立の初心は、相互連携、住民啓発、地域政策提言、地域医療の堅持にある。地域包括ケアはもとより、新介護予防やデータヘルスによる生活習慣病の発症・重症化予防について、地域を主体とした取り組みが増々求められ、オールフレイル予防・健康サポート薬局・特定健診保健指導の充実など、三師会に関わる役割の充実に努力したい。西日本豪雨災害に接し、私達、医療従事者の、地域に対する支援並びに受援力整備の重要性を痛感する。域自治体の皆様との喫緊の課題における課題共有を期し、総会に併せ本年も講演会・意見交換会を開催する。

<議 事>平成 29 年度事業報告・決算、30 年度事業計画・予算、役員改選を採択。

<平成 30 年度役員>

会 長	： 玉 木 一 弘	監 事	： 山 本 佳 昭 (薬)
副 会 長	： 加 藤 裕 正 (歯)		： 三 井 博 (歯)
	： 田 中 三 広 (薬)		： 真 鍋 勉
専務理事	： 角 田 俊 一 (歯)	政治連盟	： 松 原 貞 一
会計担当	： 鳥 谷 部 昌 之 (薬)		： 北 島 茂 (歯)
総務担当	： 葉 山 博 (歯)		： 三 田 正 名 (歯)
学術担当	： 栗 原 教 光		： 岸 亨 (薬)
	： 宇 野 浩 (歯)	地区三師会長	
	： 三 井 田 章 (歯)	青梅市	： 中 野 和 広
	： 熊 倉 武 志 (薬)	福生市	： 宮 城 真 理
広報担当	： 古 川 朋 靖	羽村市	： 道 佛 雅 克
	： 森 谷 尊 文 (歯)	あきる野市	： 下 村 智

【講演会】 国・都議員、8 市町村の首長・厚生関係議員・行政担当者・会員等 100 名を超え開催された。

<冒頭会長挨拶要旨> 西日本豪雨災害に接し、山河迫る西多摩の地政学的課題を目の当たりにした。現在、西多摩の災害医療体制作りが進行中だが、山間の病院・施設・在宅に療養される多くの災害時要配慮者にも、震災のみならず、堅牢な支援及び受援体制が構築されるよう、新たな決意で向き合いたい。平成 30 年度から、市町村主体に進められる地域包括ケア構築はもとより、要介護予防やデータヘルスによる生活習慣病発症・重症化予防等諸施策に付いては、広域行政圏である四市三町一村、官民挙げての一体的協働が重要と考えている。その為の具体像を自治体や関連団体の皆様と共有し、地域特性に応じた現場作りに生かすべく本講演会を継続開催している。本日は、街づくりの視点からの地域包括ケア構築につき、国の政策を牽引されてこられた、田城孝雄先生をお迎えした。

「まちづくりとしての地域包括ケアシステム」

～持続可能な地域共生社会をめざして～

順天堂大学スポーツ健康科学部教授 放送大学教養学部教授 田城孝雄 先生



【講師ご略歴】

1980 年東京大学医学部保健学科卒、1984 年同大医学部医学科卒、2012 年より現職。日本内科学会認定内科医。

<公職> 内閣官房構造改革推進本部地域再生推進委員会委員長、内閣官房構造改革推進本部評価調査委員会専門委員、厚生労働省地域医療再生計画に係る有識者会議委員、日本医療・病院管理学会評議員、日本在宅医学会幹事等歴任。

<講演内容要旨> 地域包括ケアはニーズに応じた居住と療養環境の提供を基本に、生活の安全・安心、療養の確保について、医療・介護のみならず様々な福祉・生活支援サービスを、生活の場で提供する仕組みであり、中学校区を基本圏域と考えると投げかけた。また障害者と健常者の交流・コミュニティ、バリアフリー環境、多世代や多様な障害に対応する住居、消費経済活動、育児環境、雇用の確保、観光・産業振興など魅力ある街により形作られるものであり、これらは基礎自治体の根幹であり首長の覚悟が求められるとし、街づくりとしての包括ケアシステムを訴えた。

【意見交換会】 講演会に引き続き西多摩 8 市町村関係者の参加も得て行われた。

<会長挨拶要旨> 田城先生のお話から西多摩は、山間、市街地に限らず、孤立への実行的対策・繋がり大切さが重要な課題と実感した。昨年は厚労省の伴様の高知県梶原（ゆすはら）町での医療経験のお話から、企画が生まれ、5 月 19 日には奥多摩町との共催で「健康長寿な地域づくりフォーラム」 in 奥多摩を開催したが、この西多摩で自然、人、文化、産業が息づき、病や障害を抱えても、尊厳ある Ageing in Place が実現できる地域として、皆様と力を合わせ、地域包括ケアの達成に尽くすことが、三師会の存在意義でありと感じている。

【平成 29 年度事業報告】

【役員会】

- 第 1 回 兼年末懇談会 事業計画執行協議（市民公開講座・勉強会等）きみ叫（福生） **平成 29 年 12 月 20 日**
- 第 2 回 総会・講演会・意見交換会の日程、内容、来賓等確認 西多摩医師会館 **平成 30 年 4 月 9 日**
- 第 3 回 総会議案の検討（事業報告、決算、監査、予算、事業計画）西多摩医師会館 **7 月 6 日**

【勉強会】

- ◇ 第四回西多摩医療・介護・福祉施策勉強会 西多摩医師会主催 西多摩三師会後援 平成 29 年 10 月 6 日
 福生市民会館小ホール 西多摩の議員・行政・医療・介護・福祉職 100 名
【テーマ】全世代型医療・介護・福祉の充実こそ、国造り・地域造りの要
【基調講演】「活力ある長寿社会に向けて」
 参議院議員 自由民主党 参議院政策審議会議長 国際保健医療戦略特命委員長 **武見敬三** 先生
【時局講演】「この国を、守り抜く」
 衆議院議員 自由民主党副幹事長・団体総局長 **井上信治** 先生

- ◇ 第 26 回西多摩栄養管理研究会 演題発表 青梅総合講堂 90 名 **平成 30 年 3 月 24 日**

【一般演題】

「認知症患者の食支援における心理学的アプローチの検討」西多摩三師会長 玉木一弘
 「摂食嚥下に影響する医薬品調査の取り組み」西多摩薬剤師会 学術副部長 榎本淳一郎



【市民公開講座】

- ◇ 第五回認知症サポータ養成講座 日の出イオンモール 都主催西多摩三師会運営 120 名平成 30 年 2 月 24 日
コラボイベント：日の出町包括支援センター及び西多摩お年寄りリスペクト隊の皆さん
講演：認知症リテラシーを磨こう！～認知症を予防し、認知症の人と暮らし、認知症になっても生きるための基礎知識～玉木一弘会長



- ◇ 健康長寿な地域づくりフォーラム in 奥多摩 奥多摩町福祉会館 共催：奥多摩町 **平成 30 年 5 月 19 日**
【基調講演】 77 名で実施

- 1) 観光・湯治・医療資源を生かした健康増進地域づくりに向けて～西多摩ヘルスリゾート構想の可能性～
 北海道大学名誉教授 国際温泉気候医学会議名誉会員 日本代替・相補・伝統医学会理事
 元国保中央会「温泉を活用した保険事業のあり方に関する研究会」委員
 元千葉県「地域資源を活性化した医療モデルによる長期滞在促進プログラムの開発」委員長 **阿岸祐幸** 先生
- 2) 住民が生きて逝くための地域包括ケアシステムづくりについて
 ～高知のへき地や行政での 6 年間と国での 2 年間で踏まえて～
 厚生労働省 医政局地域 医療計画課 医師確保等地域医療対策室
 地域医療構想策定支援専門官・病床機能報告分析支援専門官 **伴 正海** 先生
- 3) 活力ある健康長寿地域づくりに向けて～西多摩モデルへの期待と行政のリーダーシップ～
 参議院議員 自由民主党参議院政策審議会議長・国際保健医療戦略特命委員会委員長 **武見敬三** 先生

【意見交換会】 氷川キャンプ場 BBQ 施設 16:30～



糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ

西多摩地域糖尿病医療連携検討会

平素より、当会の事業にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。当会では本年度より会員の皆様に、医師会報を通して糖尿病診療に役立つヒントを得て頂ければと願い、「糖尿病診療を再考する症例」をテーマに、【糖尿病専門医による症例提示】を企画いたしました。今回は、青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科 松田祐輔先生に症例提示をお願いいたしました。今後不定期にはなりますが、糖尿病専門医による示唆に富む症例を提示していく予定です。

皆様の日頃の糖尿病診療の一助となりましたら幸いに存じます。

【糖尿病教育入院がターニングポイントとなった例】

【症例】 57 歳女性

【現病歴】

20 年前に妊娠中に糖尿病を指摘、産後の検査でも糖尿病の診断であった。糖尿病教育入院は行わず、栄養指導も初回のみとなっており、外来で内服加療を行っていたが HbA1c は 10% 前後で推移した。インスリン強化療法に変更となるも血糖値は改善しなかった。その後も同様の治療を続けていたが、インスリン使用量を減らしたいこともあって本人教育入院希望で当科紹介受診した。

【データの変化】

	初診時	1 週間教育入院後	退院 2 か月後
体重 (身長 157cm)	86kg	82kg	72kg
検査データ	血糖値 198mg/dl HbA1c10.6%	血糖値 90-130mg/dl	血糖値 141mg/dl HbA1c8.2%
治療内容	トレシーバ 眠前 44 単位 ヒューマログ 朝 18 単位 昼 14 単位 夕 10 単位	トレシーバ 眠前 6 単位 スーグラ 50mg メトホルミン 1500mg ボグリボース 0.9mg	トルリシティ 水曜朝注射 スーグラ 50mg メトホルミン 1500mg ボグリボース 0.9mg

【ポイント】

- ・糖尿病教育入院歴がなかった
- ・栄養指導が最近行えていなかった

【まとめ】

糖尿病の治療薬は何十年もの年月を経て種類は増えてきましたが、治療の根幹は食事療法・運動療法、糖尿病治療の正しい知識となります。今回の症例でもそこがポイントとなりました。糖尿病は外来での治療を希望される患者様は多く、治療薬も数多くある疾患ですが、教育入院という選択肢による治療効果や得られるものは非常に大きいと思います。本症例のような自分からの希望者はもとより、初発の糖尿病の方や長年治療していても糖尿病教育入院の経験がない方がいましたら是非提案いただければと思います。

学術講演会

日時：平成30年6月13日（水）19：20～21：00
場所：羽村市生涯学習センターゆとろぎ

「認知症診療のABC」

（公財）結核予防会 複十字病院
認知症疾患医療センター長 飯塚 友道

超高齢化に伴い認知症はすでに社会問題となり、早急な対策が求められる。認知症 700 万人時代を迎え、一部の専門医・認定看護師だけで対応可能な状況ではなくなっている。医療・ケアに関わる全ての人々が認知症に対する正しい知識を持つ必要がある。ここで、「認知症のABC」と題して、基本的な考え方をまとめてみたい。

1) 今や認知症は特別な病気ではなくなった。誰もがかかる可能性がある生活習慣病の一つと考えるべきである。久山町研究の予測では、60 歳以上の高齢者が生涯認知症になる確率は 55% であるという。つまりは長生きをすれば普通は認知症になるものだと考えて、そのための予防を早めに行う必要がある。認知症の予防とは、危険因子（糖尿病・高血圧・運動不足・喫煙など）を減らして防御因子（運動・知的趣味・社会活動など）を増やすことである。

2) 認知症の症状は、例えば頭が痛い・腹が痛いなどの症状とは異なり、自分で失くしたのに人のせいにして攻撃する、など理解しがたい症状が多い。また、病気が進行すればするほど、本人は病識がなくなるという点も、通常の身体疾患とは大きく異なる。認知症患者が周りを困らせる症状を行動心理症状（BPSD）というが、これは周りのことが分からなくなってきて根底にある不安が形を変えて表に出てきたと理解すべきである。ケアや少量の薬物により不安の軽減を図ることで、多くの場合は対応可能である。

3) 認知症の根本的治療薬はまだ出現していないが、だからと言って何もできないわけではない。通常 80 歳代の認知症患者が 1～2 年閉じこもればトイレに行けなくなり自宅での生活はきわめて困難になる。しかし、80 代の高齢患者は早期であれば、生活改善により数年かそれ以上の ADL 自立を維持した生活は可能である。この差は大きい。したがって、改善可能な部分に目をつけて機能の維持・進行遅延を目標としたアプローチを工夫していく姿勢が必要となる。

4) 「認知症治療薬は効かないし、どれを使っても同じ」という意見を耳にすることがある。ここには大きな誤解がある。認知症治療薬は適切に使用すれば大抵は何らかの効果は得られるし、それぞれ明らかに異なる薬剤特性を持つ。糖尿病治療でも食事療法・運動療法が必要であるように、認知症薬物療法には「効かせる環境づくり」が欠かせない。確かに、家に閉じこもって朝から一日中テレビを見ているような人に効く薬ではない。しかし、毎日 30～60 分程度の散歩、週に 2～3 回の集団での趣味、自宅での読書・脳トレなどの非薬物療法を定期的に行っている人では、ほとんどの場合効果を示す。認知症の治療は、非薬物療法：薬物用法 = 7：3 くらいと考えて、非薬物療法を重視すべきである。非薬物用法を着実に実行した場合、認知症治療薬は「頭がすっきりしてきた」「やる気が出てきた」「言葉がスムーズになった」「笑顔が増えた」「穏やかになった」「幻覚が消えた」などの効果を示す。このような状況では、薬物特性の違いも明確になる。薬物の効果が十分に実感できなければ違いを知ることはできない。まずは効かせる環境を作ることが重要である。

平成 30 年 9 月 27 日 (木) 19 時 30 分より青梅総合病院南棟三階講堂にて「この症状見逃していませんか? ~西多摩ファブリー病セミナー~」が開催されます。会員の皆様は、奮ってご参加の程、よろしく申し上げます。

学術部

日本人ファブリー病の心病変と長期酵素補充療法の効果

東京慈恵会医科大学 循環器内科

教授 本郷 賢一

ファブリー病は、ライソゾーム酵素 α -Galactosidase A (GLA) をコードする遺伝子の異常により、同酵素の活性が著しく低下して、全身の細胞にその基質である糖脂質 [Globotriaosylceramide (Gb3) など] が蓄積し、細胞機能障害や細胞死により腎障害、心障害、および脳血管障害などの多彩な症状が現れる疾患である。心病変に関しては、成人期以降に発症し、心電図異常、不整脈、弁膜症、心不全など種々の病態が報告されている。この内、進行性の心肥大が特徴的であり、男性患者のみならず従来保因者と考えられていた女性患者でも高率に生じる。これまで、日本人ファブリー病患者の心症状についての報告は限られており、また酵素補充療法の心病変に対する長期治療効果については報告がなされていない。今回、慈恵医大附属病院にて加療されているファブリー病患者の心病変及び長期酵素補充療法の効果につき検討したので報告する。

ファブリー病の心電図所見は、左室肥大に伴い、左室高電位、異常 Q 波、ST-T 変化、陰性 T 波などが認められるが、刺激伝導系障害として、初期には PQ 短縮が、進行期には房室ブロックや洞機能不全症候群などの徐脈性不整脈が出現してくる。その他、心房細動や心室頻拍など種々の頻脈性不整脈も出現する。これらの心電図所見の内、PQ 短縮が比較的ファブリー病に特異的とされてきた。今回の検討では、約半数の症例で PQ 短縮を認めたが、左室肥大との相関は乏しく、また QTc 延長なしとの組み合わせによる肥大型心筋症との鑑別は困難であると考えられた。酵素補充療法施行前の心エコー所見の解析では、左室肥大所見は、男性患者の約 30%、女性患者の約 25% で、治療開始前に認められていた。左室肥大は男女とも年齢と共に進行するが、その進行速度は男性患者でより速く、男性では 20 歳台より左室肥大を呈する患者がいる一方、女性では 40 歳台以降で左室肥大が出現してくることも明らかとなった。心臓造影 MRI 所見では、男性患者では左室肥大所見を呈する患者の約半数で、女性患者では左室肥大を呈する患者の約 3/4 で遅延造影が認められた。遅延造影陽性所見を呈した症例では、遅延造影は全て左室後壁基部に局限して認められた。次に、長期酵素補充療法の効果について、心エコーによる左室重量係数を経時的に観察することにより評価した。酵素補充療法施行中も男女ともに左室肥大はゆっくり進行するが、未施行患者に比べて有意に肥大進行が抑制されていた。また、酵素補充療法開始前に左室肥大を呈する患者においても酵素補充療法により肥大進行が抑制されていた。男性患者では、治療開始前に左室肥大を呈していた症例と呈していない症例で治療効果に有意な差は認めなかったが、女性患者は治療開始前に左室肥大を呈していなかった症例では左室肥大を呈していた症例に比べて肥大の進行が有意に抑制されていた。

地域医療連携懇話会の開催にあたり

青梅市立総合病院 地域医療連携室 看護師長 澤崎 恵子

平成30年7月25日に開催いたしました青梅市立総合病院第8回地域医療連携懇話会には、多くの先生方にご参加いただき誠にありがとうございました。

今回の懇話会は、27名の地域の先生方にご参加いただきました。

当院からは職員74名が参加し、戸根脳卒中センター長より血管内治療についての講演と懇親会を行いました。

懇親会では各診療科の医師、病棟看護師等の紹介をさせていただきました。

懇話会は、地域の先生方と直接交流を図ることができる重要な機会ですので、今後も診療科や病棟の紹介など行っていききたいと思います。

ぜひ、多くの先生方にご参加いただければと思います。

また、当院では本年度より入院支援センターを開設しました。

入院前に患者さんと面談し状態の把握に努め、スムーズな入院治療と退院療養ができるようサポートを始めています。

地域の先生方には退院後の、かかりつけ医のご紹介などで、ご協力いただければと思います。

今後とも、より良い医療連携ができるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

(日本医師会認定) 東京都医師会・西多摩医師会 産業医研修会



平成30年7月28日(土)に、日本医師会認定の東京都医師会・西多摩医師会産業医研修会が青梅市立総合病院で開催されました。(参加者 141名)

当日は、台風13号の関東地方への接近が予想され、交通事情等によっては開催も危ぶまれる状況でした。しかし毎回更新申請可能期間の最終の研修会でもある為、九州や北海道からの申し込み者もいます。今回は講師の先生方の会場までの移動手段を確認し、研修会は実施しました。当日、九州、北海道などの遠方からの先生は参加されました。

午後0時55分に玉木会長の挨拶で始まり、午後1時から6時20分まで5講義が組み込まれました。基礎研修の受講者には、後期研修2単位と実地研修3単位が与えられ、更新研修の受講者には、更新研修1単位、専門研修1単位と実地研修3単位が与えられます。実際、産業医の更新に必要な単位は毎年この研修会に参加すると取得可能な単位数となっています。

1時限目 “事業場における治療と職業生活の両立支援について”

2時限目 “事業場における治療と職業生活の両立支援の実際”

戸津崎労働衛生コンサルタント事務所所長 戸津崎貴文先生による講義が1時限目、2時限目とも行なわれ、1時限目には近年ガン患者数が増加している実情、まわりの支援方法などが基礎から説明され、2時限目には、実例なども呈示していただき、助言、指導の方法などが説明されました。

3時限目からは3グループに分かれて実地研修が行われました。

3時限目 “化学物質管理の見直し”

4時限目 “熱中症の予防対策と暑さ指数の測定及びそのリスク評価”

5時限目 “職場における疲労対策”

講師は十文字学園女子大学人間生活学部教授 田中 茂先生が

“化学物質管理の見直し”を担当され、

北里大学医療衛生学部非常勤講師 仲座 政宏先生が

“熱中症の予防対策と暑さ指数の測定及びそのリスク評価”を担当され

(有)スポーツケア鍼灸スポーツマッサージ治療院 山川 忠明先生が

“職場における疲労対策”を担当されました。

屋外は風雨が少し強くなってきましたが、各会場とも実技研修も行われ、参加者は無事に研修が終了し、大きな交通の混乱もなく皆帰路に着くことができました。

(宮城 真理)

平成30年度「納涼の夕べ」



平成30年度西多摩医師会互助会主催の「納涼の夕べ」が、7月11日（水）昭和の森フォレストイン昭和館で開催されました。

1日の仕事を終えられお疲れのところ、例年より1割程多い76名の先生方にお集まり頂きました。（正会員33名・準会員（研修医の先生を含め）43名）

玉木会長より開会の挨拶があり、スライドを用いて地域医療構想・電子カルテ連携等のプレゼンテーションが行われました。

乾杯の音頭は前医師会長・現監事の横田卓史先生にとって頂き、しばし食事と歓談の時間となりました。

今年度より医師会の新理事になられた大久野病院の進藤晃先生と公立阿伎留医療センターの樫田光夫先生より挨拶があった後、各病院紹介となりました。

青梅市立総合病院・公立阿伎留医療センター・公立福生病院の順に院長先生より御挨拶いただき、所属の先生方の御紹介となりました。その後、地区別に目白第二病院・多摩リハビリテーション病院・青梅今井病院・高木病院・日の出ヶ丘病院の先生方にも御挨拶を頂きました。

病院紹介が終わり次第、余興の時間となりました。余興は第一部がシーナ&ヘンチャーズ（シーナさんはスペイン人で日本でジャズ歌手として活躍中。ヘンチャーズは、多摩市医師会の前事務長の立川慎一さんがリーダーを務める結成22年目のバンド。）による10曲の歌唱・演奏が行われ、第二部では玉木会長をはじめとする医師会バンドも参加し、演奏と大福引会が開催されました。今年度は三公立病院の若い準会員の先生方が多く参加して頂き、宴会場はとても明るくにぎやかで、ご本人達もとても楽しそうでした。一等賞のPanasonic掃除機は、公立阿伎留医療センターの矢嶋幸浩先生が引き当てられました。

中締め挨拶を青梅市立総合病院副院長の大友建一郎先生にお願いし、最後に閉会の挨拶を江本浩副会長より頂き、無事お開きとなりました。

今回の「納涼の夕べ」の開催に際しましては、医師会事務局の皆様には大変お世話になりました。心より感謝いたします。

(文責:総務部 佐藤正和)

同好会短信

ゴルフ部だより

羽村市 ワタナベ整形外科 渡邊 哲哉



去る5月20日、東京バーディクラブにて西多摩医師会ゴルフコンペが開催されました。この日は爽やかな五月晴れの中での開催となりました。今回の参加者は13名と少なめでした。そんな中、今回栄えある優勝に輝いたのは今年米寿を迎えるご年齢にして、堂々とグロス99というスコアで優勝を果たした松原貞一会員（羽村）でした。同会員は毎回ご参加され、常に皆と同じティーインググラウンドから打ち、フルスイングし、最後までしっかりとした足取りでラウンドされております。日頃からの練習も毎日行っていると伺っております。更にこの日はラウンド直後に患者さんの往診に行かなくてはならないと、表彰式も参加されずに飛んで帰られました。唯々敬服するばかりです。次回も期待しています。

準優勝は田村啓彦会員（福生）でこの所安定したプレーを続けており、3位も青山彰会員（福生）が入りました。笹田美光元事務長の3連覇は阻止されました。恒例となった地区対抗戦は僅差で福生地区が勝ち、連覇となりました。次回は、羽村地区会員の奮起に期待したいと思います。

次回は少し涼しくなった頃の11月23日（勤労感謝の日）に場所を狭山ゴルフクラブに移して開催を予定しています。皆様の御参加を心待ちいたしております。

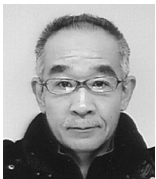


順位	氏名	所属	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット
優勝	松原 貞一	羽村	48	51	99	30	69
準優勝	田村 啓彦	福生	39	42	81	10	71
3位	青山 彰	福生	39	39	78	4	74

広報だより

スキーだより '17-'18

羽村市 永仁醫院 古川 朋靖



例年、冬は家族でスキーに行くことが多いです。まだまだ暑い日が続く中、少しでも涼しさをイメージできるように、昨シーズンの我家のスキー事情を書いていきたいと思えます。

初滑りは11月に狭山にある人工スキー場から始めます。ここはバブルがはじけても残っている貴重な人工スキー場で、自分が高校生の頃からあります。高校生の頃も初滑りは狭山と決めていました。まだまだ山には雪がなく紅葉の頃なので、足慣らしには十分な規模です。昨年久しぶりに訪れましたが、規模もリフトの設備もほとんど変わっておらず、昭和のイメージを色濃く残しています。家族と言っても家内はほとんどスキーをしないので、自分と子供が二人で出かけることが多いです。

12月になると徐々にスキー場が開いてきますが、まだまだ山の奥。かなり当地からは遠いため、狭山での練習が続きます。年末までに3回くらいは行くでしょうか。ブーツや板に足がついていくようにします。

年末から本格的にスキー場に通うようになります。年末は骨休めを兼ねて温泉のあるスキー場に行きますが、ここ数年は八ヶ岳の麓に泊まって清里サンメドウズスキー場に通っています。2-3日午前午後スキーをします。このスキー場は少しお金はかかりますが、駐車場やお昼の席の予約ができるので重宝しています。以前ほどスキー場は賑わってはいませんが、さすがに年末年始や連休は朝早くから駐車場も一杯になりますし、お昼を食べる場所の確保も難しくなります。事前に予約をしておけば、そう言った煩わしさから解放されるのはメリットと思います。さらに、自分や子供に合うインストラクターの方がいるので、スキーレッスンを受けるのにも都合がよいのです。しかしながら、欠点としてはファミリーの比率が高く、全体的なスキーレベルが低めなことが言えます。最初はそれで良かったのですが、子供が上達するにつれてやや不満が出てくるようになりました。

1月以降、今年ほぼ毎日曜日、もしくは土曜の午後にスキーに行くようになりました。子供が2級の検定を受けるための準備と自分が1級を受ける準備のためであります。土曜日のナイターに関しましては、長野県の富士見高原スキー場に行きます。ここは中央道小淵沢インターから10分程度と近く、さらにゲレンデも中上級向けに作られているので、ナイターであっても、練習のしがいのあるゲレンデです。午後三時過ぎくらいに出れば、のんびり行っても18時の開場までには十分に到着できます。大抵は地元のスキークラブの子供達(凄くうまい)がいるぐらいで県外のお客さんはほとんどいません。ほぼ貸切状態で滑れます。帰りは渋滞しらずなので土曜日のうちには帰ってこれます。日曜日の場合は、同じく中央道の長坂インターで降りて約一時間の小海リエックススキー場に行くことが多いです。ここはインターから少し遠いのですが、スキーヤーにしてもボーダーにしてもかなりの上級者が集まっています。(特にボーダー)ファミリーはほとんどいません。いたとしてもそこそこ滑れるファミリーです。他人の滑りを見ているのも勉強になるゲレンデです。正直設備は古いですが、バブルの頃に開発されたゲレンデなので致し方ないのですが、スキー学校の方々も気のいい方が多く、自分らにあったインストラクターの方もいたので、今後、メインのスキー場になると思います。帰りは、スキー場を午後4時くらいまでに出れば、当地には午後7時くらいまでには帰ってこられます。冬の中央道は夕方の小仏トンネル渋滞がほとんどありませんので楽です。

さて、練習は十分積んだつもりで、2月の下旬にスキー技術検定を受けました。予定通り子供は2級を、自分は1級を。結果は二人とも惨敗です。自分は今のレベルではクリアできません。今年受験をあきらめるレベルでした。子供の方はもう少しという感じなので、翌週に再チャレンジをしました。が、あえなく惨敗。仕方がないので、一度スクールに入って基本をやり直すようにしました。子供としては少々不本意ではあったようです。その翌週に子供は再々チャレンジ。朝寝坊をするとかマイナートラブルはありましたが、なんとか合格することができました。

今年は多分20回近くはスキー場に通ったと思います。来シーズンは子供が高校受験のために、あまりスキーには行けないでしょう。自分は子供に隠れてコツ練です。親子同時に1級が取れるといいのですが。何年先になりますか。今シーズン痛感させられたことがあります。さすがに若いっていいなってことであります。まあ、当たり前と言えども当たり前ですが。体力的には互角でも、子供は何をやっても素直に消化・吸収してしまいます。その柔軟さに驚くとともに、自分に欠如している事を痛感させられました。スキーだけでなく仕事の上でも柔軟な気持ちや新しい事を吸収する事を大事にしていきたいと感じた冬でした。

連載企画



サッカー W 杯ロシア大会考

～サムライブルーのエピジェネティックな変化～

日の出町 日の出ヶ丘病院院長 神尾 重則

【ブラジルの修羅場を乗り越えて】

サッカー W 杯ロシア大会の歓喜と狂騒は、フランスの優勝で幕を下ろした。サムライブルーの軌跡に首を巡らすと、ザックがブラジル大会後に述べていた言葉を思い出す。「同じメンバーでもう一度戦ってみたい」。

前回のブラジル予選リーグに臨んだ日本代表は惨めであった。ポテンシャルの高さは、ミラクルを生み出す予感を抱かせたが、まるで経験したことのない病原菌に侵されたかのように免疫不全に陥り、惨敗を喫した。その後の日本代表は、深いメランコリーの海に沈み、ハリルとなつてからはすっかり精彩を欠いてしまっていた。

しかし、あのときの修羅場を踏んだ主力は、ザックが期待したとおり、経験値と免疫力を高めてブーメランのように戻ってきてくれた。大会前には「おっさんチーム」と揶揄されたが、ブラジル経験者なくして、今回の決勝トーナメントへの進出はなかったはずだ。肝胆を砕いた彼らは、もともとの自然免疫に加えて、新たなる獲得免疫を掴み取り、その戦闘能力を格段に高めていたのである。



(写真1. W 杯ブラジル大会・アジア予選
埼玉スタジアムにて筆者)

【エピジェネティックな進化】

「たまたま環境に適応していた種が、結果として生き残る」というダーウインの進化論を転化して、ビジネス社会では「最も強い者が生き残るのではなく、変化したものだけが生き残る」という教訓が語られる。

ブラジルの修羅場を乗り越えて、進化あるいは変化した源泉は、DNA の構造自体が変化する突然変異ではなく、DNA を修飾するエピジェネティックな変化であり、さらには西野の組織マネジメント、選手の海外での経験値とミラー効果だった。

例えば、司令塔の柴崎からの糸を引くようなパスは、モノクローナル抗体のように長友や原口の足元の受容体にピタリと吸い付いた。吉田、昌子、酒井らのバック陣は、あまりにも芸術的なオフサイドトラップのシンクロナイズを演出し、1 対 1 でのバトルでは盤石の迎撃と応酬を見せた。攻撃陣では、乾が放った無回転の一閃がとりわけ美しく、「日本人の決定力不足は宿痾である」という呪縛を解き放ってくれたのだった。ゴールを奪った選手に賛辞を与えるのは、今も昔も変わらぬサッカーの鉄則である。

【免疫のネットワーク】

免疫とは自己と非自己を見分けながら、異物を駆除してゆくこと。そのせめぎあいは、あたかもサッカーの攻防を彷彿とさせる。敵 = 非自己と対峙して勝利するための潮目は、攻撃の実行

部隊キラーT細胞とB細胞のみに依存しているわけではない。司令塔となるヘルパーT細胞、防衛ラインを形成するマクロファージや好中球、情報伝達を司る樹状細胞といった細胞間のネットワークが必須となる。

免疫細胞は、さまざまの偶然にも支配されながら、多様化し複雑化してゆく。おのおのの免疫細胞から発せられる信号の、オンとオフがスムーズに伝達され、鍵と鍵穴がピッタリとマッチしたときに、非自己を撃退する化学反応が連鎖する。今大会では、メッシ、ロナウド、ネイマールのチームはことごとく敗退した。個の力のみならず組織の力が勝ち抜くためには必要なことを証明している。帝釈天の宮殿にかかる飾り網の様に、重々帯網としたネットワークを張り巡らすことが、チーム力の命脈となることの証左である。

【ベルギーの赤い悪魔】

さて、ベルギー戦である。2-0とリードした時、夢見心地の光陰が流れる一方で、いやな予感も毒手を伸ばしていた。名にし負う「ベルリンの奇蹟」の竹箆返し（しっぺがえし）があるのではないかと？ 時間よ矢のように速く過ぎてくれ。そんな思いで画面にかじりついていて。不条理な一点を献上し、やがて漂い始める暗雲に、胸はさらにざわつき始めた。果たして、逆襲するベルギーの凄まじい圧力に屈して、日本代表は奈落の底へと突き落されて行くことになる。

2点をリードした時、もちろん3点目を狙いに行っていたはずである。しかし、それまで明確だった「勝つためにはどうするか」という、紛ごうかたなき戦術が「臆（おぼろ）」となった。それまで明晰だった西野の頭には「ベルギーの赤い悪魔」が乗り移っていたに相違なかった。

悪魔とは仏教では仏道を邪魔する悪神をさす。それは煩惱とも呼ばれる。煩惱とは、心身を乱し知恵を妨げる心の働きで、情意的な迷いのこと。キリスト教ではサタンといい、ヒトを誘惑する存在をさす。勝利という甘い罠＝サタンが忍び寄り、西野の透徹とした判断を邪魔したように思えてならない。

【本田のオーラ】

2-2の最終盤に得たFKのチャンス。本田がゴールに向かって仁王立ちした時には胸が躍った。2010年、南ア大会における伝説の無回転ゴール。彼の背中にはあのときのオーラがよみがえっていると見た。一点の陰りもない絶妙なキックが放たれる。その軌跡は夢を載せ、美しい放物線を描いてゴールの枠を捉えた。

しかし、鉄壁のセーブが夢を打ち砕く。GKクルトワの神業的な挙止はゴールネットを揺らすことを阻んだ。あれをキャッチされては詮方ない。もしもは禁句だが、GKがクルトワでなければ、歓喜の瞬間が訪れていたに違いない。あのFKが決まっていれば歴史は大きく変わっていたはずである。サッカーとは、実力と幸運が交錯する紙一重のスポーツ、非情な世界であることを再認した。

花の美しさは刹那である。戦いを終えて肩を落とす本田の姿は、仏教的な無常観を漂わせていた。毀誉交々の本田ではあったが、4年後のピッチにその姿がないのはさみしい限り。多くの夢を見せ、サッカーの醍醐味を教えてくれたことに感謝したい。



(写真2. W杯 アジア予選の本田 埼玉スタジアムにて筆者)

【戴冠への道】

ベルギーは W 杯および FIFA ランクとも 3 位、いわば世界の高峰カンチェンジュンガ峰に相当する。立ち足はだかる壁を乗り越えるジャイアントキリングのためには、勝利の女神・NIKE の力も借りねばなるまい。もっとも幸運を手繰り寄せるには、偶然を凌駕する実力が必要である。NIKE の有翼を味方につけて、愚公山を移したい。

ベルギー戦の経験は、再び世界を驚かせるための蹉跌。あきらめることなくカタルを見つめ、鳥の目で雄図を描き続けよう。そして足元のボールを動かし続けることだ。ボールはいくら動かしても疲れないのだから。

「ドーハの悲劇」の意趣返し、今回は「ドーハの奇跡」を起こす時。本田の口癖であった「優勝を狙う」は、決して大言壮語ではあるまい。サムライブルーの DNA に刻まれた潜在能力の高さは、この大会が証明してくれた。巨万の努力はエピソード的な変化を促す。それは次世代へも遺伝してゆくもの。ロシアにおけるサムライブルーの進化の記憶をカタルに繋げたい。戴冠へのブレイクスルーの道に天佑と神助あれ。

お詫びと訂正

先月号の24ページ・新規入会会員（準会員）の御紹介の記事で青梅市立総合病院の戸根 修先生のお名前前の漢字と卒業年の元号が間違っておりました。お詫びして訂正致します。申し訳ございませんでした。

氏名 戸根 修
勤務先 青梅市立総合病院
出身校大学 東京医科歯科大学 昭和54年3月卒

お知らせ

事務局より お知らせ

保険請求書類提出

平成30年10月（9月診療分）**10月9日（火）** 正午迄

平成30年11月（10月診療分）**11月8日（木）** 正午迄

（締切日以前の提出も可能です）

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を

毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。

お気軽にご相談ください。

◎相談日 **9月20日（木）**
10月18日（木）
11月15日（木）

◎場所 西多摩医師会館
◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）
◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。

（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

理事会報告

★ Information

6月定例理事会

平成30年6月12日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・石田・江本・川上・栗原・進藤・土田・馬場・古川・宮城・横田)

【1】報告事項**(1) 各部報告**

総務部: ○ 6/12 現在の定時総会出席者定足数の状況等について報告

(2) 地区会報告 (各地区理事):

青梅市 5/24 災害医療青梅ブロック部会に出席・参加

5/28 理事会開催

福生市 6/5 定時社員総会開催

羽村市 6/5 定時社員総会開催 会長に道佛雅克先生を選出

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(3) その他報告

○ 都医第9回地域包括ケア委員会 (5/24 進藤晃委員)

○ 都医第9回病院委員会 (5/25 進藤晃委員)

委員から提出された資料により上記委員会の内容等について確認された

○ 都医第7回産業保健委員会 (5/24 馬場眞澄委員)

委員より標記委員会の内容等が資料に沿って報告された

【2】報告承認事項**(1) 入退会会員、会員異動について**

— 承認 —

資料により、準会員2名の入会申請が紹介され承認された。また、5名の準会員退会が報告・紹介された

(2) 平成30年度東京都脳卒中及び糖尿病医療連携推進事業実施計画・年間執行計画等について

— 承認 —

標記事業の委託先に提出する計画案等が説明紹介され承認された

(3) C型肝炎地域連携パス協議会への出席依頼について (東京都肝炎診療連携拠点病院事業)

— 承認 —

標記依頼につき、前年同様青梅総合病院の野口修先生の下承が報告され先生の出席が承認された

【3】協議事項**(1) 青梅市立総合病院の建替に係る基本設計の説明について (依頼)**

青梅市立総合病院の原院長より、病院の建替に係る基本設計の概要等について、社員総会

及び理事会で説明したい旨の依頼につき会長より説明され承認が求められ可決承認された
— 可決承認 —

【4】その他

(1) 当会の公益目的支出計画に係る認識の共有について

当会の公益目的支出計画につき、次年度からの支出額検討等を念頭に当初計画及び内容について資料により確認

6月定例理事会

平成30年6月26日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・江本・樫田・栗原・佐藤・進藤(晃)・進藤(幸)・土田・古川・宮城・横田・中野)

【1】報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

6/15に開催された標記協議会の伝達事項等について、資料により説明報告された

(2) 各部報告

学術部: ○6/22に開催された多摩医学会役員会の内容(今年度の多摩医学会開催日10/27)等について

(3) 地区会報告(各地区理事):

青梅市 6/22に定時社員総会開催

福生市

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(4) その他報告

○「平成30年度 集団健診実施計画(案)」について

全国健康保険協会東京支部が実施予定の標記計画案について資料により紹介・情報提供

○学校保健推進へのご配慮について

標記に係る都医からの通知内容について資料により説明・報告

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により、準会員2名の入会申請が紹介され承認された

また、2名の準会員退会が報告された

【3】協議事項

(1) 平成30年度 多摩医学会役員推薦依頼について

標記依頼につき、前年同様玉木会長・江本副会長・栗原理事を推薦することが提案され可

決承認された

— 可決承認 —

(2) 「平成 30-31 年度役員職務分掌・地区・委員会等人事表 (案)」について

資料として標記職務分掌等人事表案が示され、案の内容・分掌・配置理由等について説明の後、各役員等の了承が求められ承認された。また、各主担当・委員長には部員・委員の選定・確認と報告が求められた

— 可決承認 —

【4】 その他

特になし

7月定例理事会

平成30年7月10日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・江本・榎田・栗原・佐藤・進藤 (幸)・田中・土田・古川・中野・横田)

【1】 報告事項

(1) 各部報告

総務部: ○ 7/24 の移動理事会・新旧役員懇親会の予定等報告、出席の確認がされた

○資料として理事の年間行事予定等の概略表が示され説明・報告された

総務部 (会員福利互助担当): ○ 7/11 の「納涼の夕べ」に係る協力依頼、会員の参加人数等について

地域医療部: ○資料により都医が実施する東京都在宅療養研修事業について説明、この事業に参加・協力し、青梅総合病院等と協力し病院内での理解促進研修・病診連携研修 (相互研修) を実施する予定について

(2) 地区会報告 (各地区理事):

青梅市

福生市

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(3) その他報告:

○都医第 10 回地域包括ケア委員会 (6/28 進藤晃委員)

○都医第 8 回産業保健委員会 (6/28 馬場眞澄委員)

各委員より提出された資料により上記委員会の内容等について確認された

○ 7/4 付 読売新聞の掲載記事について

標記記事の内容等につき情報として説明・紹介

【2】 報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により、準会員1名の入会申請が紹介され承認された。また、1名の準会員退会・3件の異動届が報告・紹介された

(2) 平成30年度認知症サポート医リーダー養成研修会における御報告について（依頼）

— 承認 —

標記依頼事項について紹介され、会長として研修会における講師を受諾することにつき認可が求められ承認された

【3】 協議事項

(1) 「東京医科歯科健康まつり」へのご賛同について

資料により標記依頼内容が紹介され、賛同について可決承認された

— 可決承認 —

(2) 認知症疾患医療センター協議会委員の推薦依頼について

標記依頼内容が紹介され、本人の承諾も得られていることから道佛雅克先生を推薦することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

(3) 定款施行細則一部改正（案）について

資料として表記細則の改正案が示され、内容について説明・紹介され協議。（案）を一部修正し次回再協議することとした

(4) 「にしたま ICT 医療ネットワーク協議会」の立ち上げについて

西多摩地域医療連携 ICT システム整備委員会からの資料により、標記協議会の立ち上げ等につき必要根拠・今後の方向性等が説明・紹介され、現状の ICT システム整備委員会を協議会として発足することにつき承認が求められ可決承認された

— 可決承認 —

【4】 その他

(1) 平成30年度医学技術振興事業の申請について

都医への標記申請について説明・紹介され、各部において申請できる事業につき考慮・検討が依頼された

(2) 「会員名簿」について（総務部からの依頼）

役員等改選期に作成が必要となる当会「会員名簿」（案）が配布され、次回理事会までに内容等の検討・確認が依頼された

7月移動理事会 平成30年7月24日（火） フォレストイン昭和館 眺林

（出席者：玉木・江本・榎田・栗原・進藤（晃）・進藤（幸）・田中・土田・古川・宮城・横田・中野）

【1】 報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

7/20に開催された標記協議会の伝達事項等について、資料により説明報告された

(2) 各部報告

総務部（会員福利・互助担当）：○7/11の「納涼の夕べ」に係る状況等について

○「忘年クリスマス会」の開催日決定

（12/4 19時30分～昭和館）について

総務部（社会保険担当）：○「市町村国保主務担当者との懇談会」の開催日決定（10/12 13時～）について

学校医部：○西多摩学校保健連絡協議会の開催日決定（2/7 13時～桜会館）について

(3) 地区会報告（各地区理事）：

青梅市

福生市 7/11「納涼会」を開催予定

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(4) その他報告：

○平成31年度「産業医選任等に関する協定書」第4条に定める費用（東京都産業医の報酬単価）について

都医からの標記通知内容（31年度東京都産業医の報酬単価）について紹介・報告

【2】 報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により準会員2名の入会申請及び準会員2名の退会が紹介報告され、入会について可決承認された

【3】 協議事項

(1) 定款施行細則一部改正（案）について

前回協議修正された改正案（同細則第2条第1項）が示され確認、異議なく可決承認された

— 可決承認 —

(2) 「会員名簿」（案）について

前回配布され確認検討が依頼されていた（案）について、意見・指摘事項等はなく示された（案）の通り可決承認された

— 可決承認 —

【4】 その他

特になし

会員通知

- 会報7-8月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 学術講演会（7/9、7/23、8/2、8/8）
- 西多摩消化器疾患カンファレンス（7/3）
- 公立福生病院病診連携講演会（7/30）
- 産業研修会（9/22 帝京大学医師会）
- ” （9/9 東邦大学医師会）
- ” （12/16 女子医大医師会）
- ” （10/20 東京医科大学医師会）
- ” （11/4 昭和大学医師会）
- ” （10/27 日本橋医師会）
- 西多摩医師会定時社員総会報告
- 西多摩医師会互助会総会報告
- 情報提供 百日咳に関する注意喚起
- 東京都医師会電話医療通訳の利用促進事業のご案内
- 東京都医師会第2期「東京在宅医療塾」開催について
- 糖尿病生活習慣病栄養指導外来の症例検討会
- 多摩医学会講演会演題募集
- 平成30年度西多摩在宅医療講座開講のお知らせ
- 不要になった水銀血圧計・体温計の自主回収の実施につて
- 地域医療介護総合確保基金（医療分）の活用にあたっての地域医療構想調整会議への協議について
- 平成30年度児童虐待対応研修（8/30）
- 平成30年度地域の診療所医師向け小児救急研修会（7/28）
- 小児在宅医療サポートチーム勉強会（7/12）
- 集団的個別指導における保険医療機関の類型区分の変更について
- 平成30年度東京都難病指定医の指定に係る研修の実施
- 平成30年度東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」第Ⅱ期（9月～11月期）
- 平成30年度結核予防技術者地区別講習会（関東甲信越ブロック）（8/30）
- 重複・頻回受診者等訪問指導事業に係る意向確認書送付に伴う事業の周知依頼につて
- 平成30年度医療保険講習会
- ダニ媒介感染症の概要
- 西多摩保健所 医療安全管理対策「予防接種間違い防止研修」（7/20）
- 平成30年8月1日から東京都後期高齢者医療の保険証が変わります
- 東京都後期高齢者医療の「保険証」及び「減免認定証」が更新されます
- 平成30年8月から高額療養費の上限額が変わります
- 高齢者に係る高額療養費制度の見直し等について
- 日医生涯教育協力講座セミナー「これからの高尿酸血症・痛風の治療戦略」（10/20）
- A型肝炎患者の報告数増加に伴う注意喚起
- 東京都医師会雑誌平成31年1月号（新春随想集）について
- 平成30年度外国人未払医療費補てん事業のご案内
- 糖尿病患者さんと糖尿病予備群の方のための「糖尿病1日教室」（9/29）
- 生活習慣病栄養指導外来「協力医療機関」予約担当窓口等一覧表
- 東京都医師会日医かかりつけ医機能研修制度平成30年度応用研修（9/30）
- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規、追加及び届出内容の変更等について（H30年10月1日算定）
- 第31回（平成30年度）健康スポーツ医学講習会開催要綱（11/10・11）
- 「はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給の留意事項等について」の一部改正について
- ぜん息患者最新治療及びアレルギー対策講演会
- 平成30年度乳幼児健診研修会（10/27）
- 9月レセプト提出について
- 労働厚生省刊行「死亡診断書（死体検案）記入マニュアル（平成30年度版）」及び「ICDのABC（平成30年度版）」について
- 「2019年版医師日記」（手帳）の斡旋について
- 西多摩保健所だより

- 平成30年7月豪雨による被災医療機関等に対する支援金について
- 平成30年度第2期西多摩医師会等諸会費について

- 8月8日学術講演会延期について
- 个人防护具着脱訓練 (9/13)
- 情報提供 (風しんに関する注意喚起)

医 師 会 の 動 き

平成30年8月22日現在			
医療機関数	193	病 院	30
		医院・診療所	163
会 員 数	524	正会員	206
		準会員	318

会 議

- 7月4日 第1回西多摩地域脳卒中医療連携検討会
- 5日 在宅難病調整会議
- 10日 定例理事会
- 24日 移動理事会・新旧役員懇親会
- 8月22日 広報部会 (会報編集)
- 24日 学術部会
- 29日 学校医部会

講演会・その他

- 7月3日 第32回 消化器疾患カンファレンス
【症例提示】
- ①「食道胃接合部癌の4症例」
井上胃腸科 井上 栄生 先生
青梅市立総合病院 外科
竹中 芳治 先生
- ②「原発不明膵体尾部リンパ節癌の一切除例」
高木病院 外科 桐原 正人 先生
- ③「MTX投与中の小腸穿孔の1例」
高木病院 内科 國分 昭紀 先生
- 【特別講演】
演題：『最近の胃癌治療の動向と当院の取り組み』
演者：東京医科歯科大学
低侵襲医療学分野
教授 小嶋 一幸 先生
- 6日 西多摩地域糖尿病症例検討会
- 9日 保険整備会

9日 学術講演会

【講演1】

演題：「当院における、がん関連
深在静脈血栓症の現状
～がん登録データと電子カルテ
の解析から～

演者：公立阿伎留医療センター
循環器内科 部長 松永 洋一 先生

【講演2】

演題：「Onco-Cardiology ～血栓
症の対応も含めて～」

演者：がん研究会有明病院 腫瘍
循環器・循環器内科 部長
志賀 太郎 先生

11日 西多摩医師会「納涼の夕べ」

19日 法律相談

23日 学術講演会

演題：「最終ステージに入ったC型
肝炎治療 ～病診連携の重要性～」

演者：青梅市立総合病院 消化器
内科 診療局長 野口 修 先生

26日 糖尿病教室

①糖尿病の運動療法について

②脂質のとり方について

28日 産業研修会

(1)事業場における治療と職業生活
の両立支援について

(2)事業場における治療と職業生活
の両立支援の実際

戸津崎労働衛生コンサルタント
事務所 所長 戸津崎 貴文 先生

(3)化学物質管理の見直し

-医療機関や製造現場で安易に化
学物質を使用していませんか?-

十文字学園女子大学人間生活学
部 教授 田中 茂 先生

(4)熱中症の予防対策と暑さ指数の
測定及びそのリスク評価

北里大学医療衛生学部
仲座 政宏 先生

(5)職場における疲労対策

(有)スポーツケア鍼灸スポーツ
マッサージ治療院 山川 忠明
先生

- 8月2日 学術講演会
インスリン治療 UPDATE
【特別講演】
演題：「珠玉の基礎インスリン、
グラルギンがなぜインスリン治療
の第一選択か」
講師：東大和病院 糖尿病・内分
泌科 糖尿病センター長 犬飼 浩一
先生
- 8日 保険整備会
- 8日 学術講演会
台風13号の為延期
- 28日 生活習慣病栄養指導外来の症例検
討会

役員出張

- 7月6日 西多摩三師会役員会
- 7日 福生市学校保健会総会
- 7日 羽村市学校保健会総会
- 12日 C型肝炎地域連携パス協議会
- 13日 東京都医師会学校医評議員会・総
会
- 14日 西多摩三師会総会・講演会・意見
交換会
- 17日 生活保護指定医療機関指導立会
- 20日 地区医師会長連絡協議会
- 27日 西多摩地域保健医療協議会

【入会会員】(準会員)

氏名 野田 聖二
勤務先 桜井クリニック
出身校大学 東京医科歯科大学
平成25年3月卒

氏名 川邊 保隆
勤務先 川辺医院
出身校大学 埼玉医科大学 平成21年3月卒

氏名 陣内 快史
勤務先 (医社)悦伝会 目白第二病院
出身校大学 杏林大学 平成26年3月卒

氏名 新井 真衣
勤務先 (医社)健真会 新井クリニック
出身校大学 東邦大学 平成21年3月卒

氏名 後藤 洋伯
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 日本大学 平成25年3月卒

【退会会員】(準会員)

氏名 新井 真衣
勤務先 公立福生病院

氏名 三村 大悟
勤務先 公立福生病院

氏名 道廣 岳
勤務先 (医社)悦伝会 目白第二病院

氏名 鈴木 周平
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 森 聡史
勤務先 公立阿伎留医療センター

【法人化による開設者・名称変更】

(新) (医社)ナルケンキッズクリニック
理事長 成井 研治
(旧) ナルケンキッズクリニック 成井 研治

【名称変更】

(新) 社会福祉法人 鶴風会 上代継診療所
(旧) 社会福祉法人 鶴風会
東京小児療育病院 付属 上代継診療所

表紙のことば

前列向かって左から土田大介（理事）横田卓史（監事）玉木一弘（会長）江本浩（副会長）中野和広（監事）佐藤正和（理事）
後列向かって左から（理事）古川朋靖、進藤

晃、宮城真理、檜田光夫、進藤幸雄、栗原教光、田中克幸（敬称略）
石田信彦（副会長）は都合により欠席
広報部

あとがき

～秤検定騒動～

毎日のように押し売り電話や迷惑FAXが押し寄せる中、＜院内にある体重計の検定に〇月〇日に伺います＞という不思議なはがきが東京都計量協会なるところから届いた。新卒の詐欺か？と最初びっくりしたがどうやら二年ごとに行なわれる公的な制度であることが確認できた。しかも電気店やホームセンターにある比較的高品質の体重計であっても認可されず、元々医療用などで公的認定マークが付けられている秤しか認可されないとのこと。認定印のない体重計だと健診・診断業務は行えないとの説明であった。他の先生方に聞いたところ久しぶりに来たところも多く、どうやら行政が医療分野の秤検定への管理強化を思い出したのであろうか。検査当日は延べ棒のような鉄の塊りを台車にたくさん積んで来られて、200Kgまで順次正確に表示されていくことを確認され合格の検定シールを体重計に貼ってもらった。このデジタルな時代に二年ごとの秤検定というアナログな制度は異和感が強い。これも太閤検地での度量衡の統一以来のお上の管理の名残と天下り制度のなすわざであろうか。これと同じく4公6民という封建時代の税制も実は現代までずっと変ら

ず残っている。勤労者においては源泉徴収という制度や給料からの市民税天引きという制度で4公6民という実感を巧妙に「感じさせない」制度になっているだけで、我々は封建時代から税制としては何ら変りのない状態である。それでも集めた税金を有効に使ってもらえればいいのだが、先日は参議院議員の定数増加という時代に逆行する制度を通し、ばら撒きにちかい補助金、高校が完了したら大学まで広げていくという際限のない学校授業料の無料化など最近首をかしげることばかりである。さて来年度はついに消費税が10%へと値上げが予想される。すでに薬剤は消費税を入れると差益ゼロ近くとなり期限切れ廃棄ロスを考えると、一部の薬剤についてはすでにマイナスの状況となっている。医療設備・機械についても毎年1.4%かかる償却資産税（固定資産税）を入れると実質我々医療機関の購入税額は本体価格の20%以上となろう。医療機関だけが消費税を丸ごとかぶっているのはもはや限界に近い。個人的には診療報酬のアップより医療に関わる消費税の無税化の方に広く知恵を出しあって欲しいのだが、どうしても開業医の儲け話にすり変えられてしまうのは残念である。

前田暢彦

一般社団法人 西多摩医師会

平成30年9月1日発行

会長 玉木一弘 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会 古川 朋靖

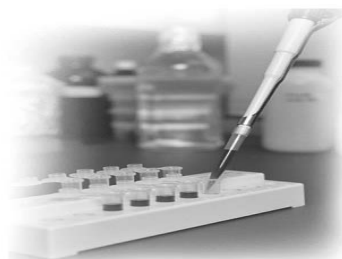
栗原 教光 土田 大介 鹿児島武志 奥村 充 神尾 重則 近藤 之暢
菊池 孝 進藤 幸雄 前田 暢彦 松崎 潤 松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

生命の輝きをみつめ

“いつの時代も、地域医療とともに”

ひとりひとりの健康で豊かな社会生活を掲げ
地域に根ざした検査所として歩んできました。
高度な技術と最新の設備で地域医療の
さまざまなニーズに対応しています。



登録衛生検査所



株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL; 04-2964-2621 FAX; 04-2964-2621

URL; <http://www.e-musashi.co.jp>

健康の通信簿



健康ってどうやって調べるんだろう？

宿題やテストではわからないよね。

体の通信簿ってあるのかな？

成績悪いとおこられちゃう？

パパやママの成績がいいとうれしいな。



臨床検査事業

臨床検査/遺伝子検査/予防医学/治療検査



医療情報システム事業

電子カルテシステム販売・保守



関連事業

食品衛生検査/環境検査/歯科検査



臨床検査は健康な未来への道しるべ
バイオシステムで医療に貢献します

株式会社ビー・エム・エル
<http://www.bml.co.jp/>

本社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3 TEL.03-3350-0111 (代表) FAX.03-3350-1180
BML総合研究所 〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1 TEL.049-232-3131 (代表) FAX.049-232-3132

国民の健康と医療の向上をめざす

東京保険医協会

医師会と保険医協会はくるまの両輪です。
医師会の会員の皆様にも保険医協会への入会をおすすめします。

資料請求は
こちらまで!



元西多摩医師会会長 松原 貞一

元西多摩医師会会長 真鍋 勉

減点や返戻等の保険請求対策、年金や休業保障等の多彩な共済制度で
保険医協会はこれからも先生方をサポートして参ります。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-7 KDX新宿ビル4F TEL:03-5339-3601
FAX:03-5339-3449 E-mail:info@hokeni.org <http://www.hokeni.org/>

東京保険医協会 検索



お客さまの幸せづくり
たましん

多摩の
未来を創る
たまたまばこ



RISURU

©2003, 2018 SANRIO CO.,LTD.
APPROVAL NO. G583590

リスルはたましんのオリジナルキャラクターです



Makes your happy life.

たましんは、
お客さまの幸せとともに
歩み続けます。



多摩信用金庫 <http://www.tamashin.jp>